

## 令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽中学校	学校 No.	5 6
-------	-----------	--------	-----

## 1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)

本校は、「心身ともに健やかで、思いやりがあり、たくましく生きる人間を育てる」を教育目標にさまざまな体験を通して「夢を育む教育活動・豊かな心を育てる教育活動」の充実を目指している。

福祉活動については、今年度も「障害者の方々と、共に生きる明るい社会を作るために、自分たちに何ができるのかを考え、実践できる生徒の育成」を目標に、活動への契機となる体験を通して介護や福祉に対する理解の深化、ボランティア精神の育成を図ろうと、校内・校外の諸活動に取り組んできた。

推進体制として、各学年に福祉担当教員を配置し、福祉実践教室、職場体験などの学校行事の実施を中軸に、地域でのボランティア活動や生徒会による募金活動など、幅広く福祉活動を進めてきた。

## 2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)

## (1) 社会福祉に対する関心を深め、意識を高める活動

## ① 各種施設でのボランティア活動 (7、8月)

高齢者施設「たんぼぼ鶉の里」、障害者施設「あすか」、障害者施設「あおぞら」などで、ボランティア活動を体験した。高齢者施設では、高齢者の方の話し相手をしたり、介助の手伝いをしたりして、福祉について考えることができた。障害者施設では、入所者と一緒に、キャンドル作りやアルミ缶、ペットボトルなどの資源選別などの作業を行うことで、作業所の人たちと交流することができた。



## ② 福祉実践教室 (10月)

1年生を対象に、講座ごとに分かれて、実際に車椅子、手話、点字、要約筆記、視覚ガイドヘルプを体験したり、認知症理解や発達障害理解の講座を受講したりした。実際に障害のある人々との交流や、具体的な介助の仕方を学ぶ中で、障害のある方への理解を深めるとともに、「何か手助けをしたい、役に立ちたい。」という気持ちを育てることができた。



## (2) 地域社会との連携を深めた活動

## ① ゲストティーチャーに学ぶ会 (1月)

地域の方を招いて、地域の歴史や仕事などの経験談を聞くことができた。ゲストティーチャーの先生方の熱意のこもったお話に、真剣に聞き入る姿が見られた。



## (3) その他の活動



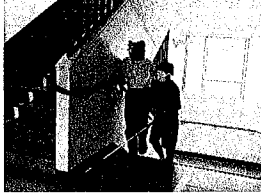
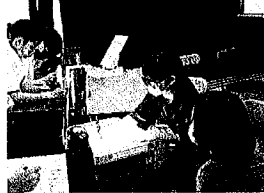
代表生徒が校区内の商業施設で赤い羽根共同募金への協力を呼びかけた。校区内で行うことで、地域の方の協力を得られた。また、生徒にとっても地域の方の温かい心に触れることとなり、良い経験になった。

## 3. 福祉教育の成果と今後の課題

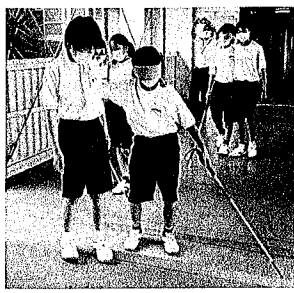

福祉活動を通して、生徒たちが、人の役に立ちたいという気持ちで主体的に活動する姿が多く見られた。地域や校内で自主的に奉仕活動を行う生徒も増えた。生徒の関心、意欲を高めながら、学校として今後も積極的に社会福祉活動に参加できる生徒を育てていきたい。



## 令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中学校	学校NO	57
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>重点努力目標を「利他共生」と設定し、道徳教育と関連しながら福祉教育を行い、子どもたちの意欲を高められるように計画を立てた。総合的な学習の時間においても、福祉実践教室を有意義なものにできるように準備を行った。感染症の対策のため、例年のような取り組みができず、変更や縮小を継続した。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>6月～3月</p> <p>道徳の授業で「いのち」や「人」をテーマに据え、生命の尊さや思いやりの心について学習を行った。道徳の授業を通して、継続的に取り組み、福祉の意識や人間の尊厳について考えることができた。</p> <p>6月23日</p> <p>第1学年として、福祉実践教室を行った。興味をもって講師の方の話を聞いたり、活動をしたりできるように、生徒に希望講座の調査を行った。その甲斐あって、どの講座でも講師の話に真剣に耳を傾け、難しくても最後まで諦めずに実習に取り組むことができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>3月1日・2日</p> <p>ゲストティーチャーにラジオパーソナリティーの林ともみさんをお招きして、「家族のカタチ。」という道徳の授業を第3学年に行った。林さんの娘の美優ちゃんには重度の障害があり、林さんの立場に立って障害について深く考えることができた。障がい者福祉に留まらず、様々な生き方や人は支えられていることなどにも気づき、有意義な時間となった。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>道徳教育でいのちや生き方について、多面的・多角的に考える学習を継続的に行うことにより、福祉教育に関する意識を高めることができた。</p> <p>本校では夏のボランティア体験の申し込みが非常に多く、毎年抽選になってしまうことが残念である。また、参加が決まっていた生徒の受け入れ先の都合で急にキャンセルになった場合、改めて参加ができるような仕組みが必要であると感じた。生徒のやる気を無駄にしてしまうことに矛盾を感じた。</p>			

## 令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立北方中学校	学校No.	58
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
<p>本校は、『自主・責任』を常に意識し、実行に移すことのできる生徒の育成」を教育目標に掲げ、生徒の自主的な活動を重視した各種活動に努めている。また、体験活動を多く取り入れることで、校訓でもある『自主・責任』の具現化を目指している。社会福祉教育もこの一環として位置づけ、社会福祉への理解と関心を高め、福祉の心の育成を図るとともに実践力を育てることを目標とし、豊かな心の育成に取り組んでいる。</p>			
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
(1) 社会福祉活動に対する関心を深め、意識を高める活動			
ア 福祉実践教室（1年生）			
<p>今年度、三年ぶりに開催することができた。事前に、総合的な学習の時間などで福祉に対する意識高揚を図った。当日は、点字・要約筆記・視覚障害者ガイドヘルプ・高齢者疑似体験の講習を受け、体験活動を行った。実際に体験することで、障害のある人たちの苦勞を感じることもできた。また、自分たちの環境を見直すことで、進んで福祉活動に関わっていこうとする気持ちを高めることができた。</p>			<p>【福祉実践教室の様子】</p> 
イ 広報活動（全学年）			
<p>生徒の活動については、写真や感想を紹介したり、掲示物に展示したりした。また、学校ウェブサイトで、活動の様子を知らせた。</p>			
(2) 地域社会との連携を図る活動			
ア 夏休み福祉ボランティア体験（全学年〔希望者〕）			
<p>夏季休業中に老人福祉施設や障害者施設を訪問し、一日体験学習をした。戸惑いや不安があったようだが、活動を続けるうちに、自分でも役に立つことができると感じられるようになった。活動を通して、楽しさや喜びを感じ、今まで抱えていた老人や障害者に対する理解を深めることができ、貴重な体験となった。</p>			
イ 地域ボランティア活動（全学年〔希望者〕）			
<p>今年度、数々の地域行事が三年ぶりに開催され、運営の手伝いや清掃活動などに多くの生徒が参加した。地域の方々にあいさつされたり、褒められたりすることにより、大人に認められ、地域に役立っていることを実感させることができた。</p>			<p>【地域ボランティア活動の様子】</p> 
ウ お年寄りを囲む会（3年生）			
<p>地域のお年寄りを学校に招き、給食をともにしながら、戦後の体験談や昔の遊び、北方町の生活様式、伝統文化などの話を聞かせていただき、郷土を愛する心を高めていく行事であるが、コロナ禍のため、今年度も実施できなかった。</p>			
(3) 生徒の手による自発的な活動			
ア 学校周辺にある通学路のゴミ拾い（環境委員会）		イ 赤い羽根共同募金活動（生徒会）	
ウ ゴミ0運動（環境委員会）		エ あいさつ運動（生徒会）	
3 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>様々な活動を継続的に行ってきたが、コロナ禍の影響が多々あり、今年度も体験できる場は限られた。しかし、工夫しながらできる範囲で行った活動や、道徳教育などで、福祉活動に対する関心が高まるとともに、命の大切さを感じ取ったり、思いやりの心が育ってきたりしている。</p>			
<p>今後は制限も少なくなると思われるので、感染症対策を十分に行ったうえで、活動できる機会を増やしていきたい。また、地域のボランティアにも積極的に参加させ、地域に貢献する喜びを味わわせたい。生徒に成就感を味わわせることにより、福祉に対する意識をさらに高めていくとともに、より多くの生徒が関わることができるように働きかけていきたい。</p>			

## 令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和中学校	学校No.	59
-------	-----------	-------	----

### 1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、『「笑顔 輝け 大中」のもと、心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒を育成する』ことを、教育目標に挙げている。今年度も社会福祉実践校として、社会福祉に関する理解と関心を高め、「共に生きる」姿勢を育てることを目指し、各学年・生徒会を中心に活動を進めた。

- 一宮聾学校や本校特別支援学級との交流活動を通して、心のふれあいと相互理解の推進を深める。
- 福祉実践教室を通して、障害のある人の日常生活について正しい認識を深め、共にたくましく生きようとする気持ちの高揚を図る。
- 福祉体験活動を通して、思いやりの心と助け合う態度の育成を図る。

### 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

#### (1) 本校特別支援学級の生徒との交流

本校特別支援学級の生徒が交流学級の中に入り、宿泊活動、体育祭、合唱祭などに参加した。お互いに声を掛け合い、心のふれあいを深めていくことができた。

#### (2) 福祉実践教室・ボランティア福祉体験学習・一宮聾学校交流会

本校では、5月に1学年において福祉実践教室を実施し、障がい者や高齢者生活の実体験や、コロナ感染症対策の中、中止となった施設もあつたが福祉サービス事業所が行っている活動の体験をすることで理解を深めることができた。

#### (3) 募金活動

校内での募金活動や街頭募金活動では、生徒会役員の生徒を中心にコロナ感染に気をつけて募金活動を行った。



福祉実践教室

福祉体験学習



一宮聾学校交流会

街頭募金活動



### 3. 福祉教育の成果と今後の課題

生徒会や各学年・学級の活動の中で、多くの生徒が積極的に福祉活動に参加し、活動を通して生きた心の教育ができた。また、福祉実践教室や福祉体験学習など、実際に高齢者や障がい者の生活に触れることで新しい発見に気づき理解を深めることができた。思いやりの心や共生への意識を高め、生徒が自分自身を見つめるよい機会にもなった。しかし、コロナ感染症の懸念から、生徒（家庭）の参加やボランティア活動ができる施設が減少し、従来の活動が思うようにできなかったことが残念であった。

今後は、コロナ禍でも、ボランティアの体験活動へ安心して参加できるように対策を考え、中学校3年間でより多くの生徒が福祉の体験活動ができるようにしていきたい。また、地域の方とのふれあいを大切にして、地域に広がる活動を展開していくことも視野に入れて、福祉教育を進めていきたいと考えている。

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢中学校	学校 No.	60
-------	------------	--------	----

### 1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大を予防するため、清掃ボランティアや挨拶ボランティア、学外の団体と協同しての活動を例年通り行うことが難しい状況だった。その中でも「豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標に、生徒会活動やボランティア活動を通して、礼節や思いやりの心を育て、人権意識の高揚を図るとともに、いじめや不登校生徒をつくらない学校をめざし、実践に取り組んだ。

### 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

#### (1) 夏季ボランティア体験

毎年、夏季休業中に、校区内の福祉施設でボランティア体験学習を行っている。ボランティア体験では、食事の介助や身の回りの世話、施設利用者とのレクなどを行った。この体験を通して、相手の立場に立って考えようとする気持ちが生まれたり、社会福祉関係の仕事について考えたりするなど、福祉に関する考えを深めることができた。

#### (2) 人権集会

人権週間に合わせて、生徒会が企画をして全学年リモートで人権集会を行った。「人権とは何か?」、「いじめをなくすには?」について考えた。その後、道徳の時間や学級での話し合いを経て、「いじめ追放宣言書」を作成した。いじめを許さない学級を目指し、生徒一人ひとりがいじめをなくすためになにが必要かを考えることができた。



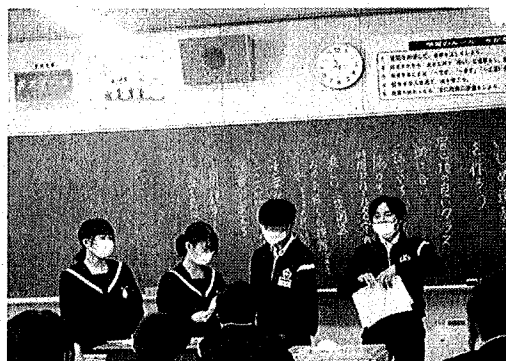
<夏季ボランティア体験の様子>



#### 12月19日(月) 「いじめ追放宣言」

私たちは、いじめを絶対に許しません。

- ・だから「全員に思いやりのある発言や行動をします」
- ・だから「誰にでも優しくします」
- ・だから「良いところを褒め合います」
- ・だから「笑顔であいさつをします」
- ・だから「相手を喜ばせることをします」



### 3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度は、福祉体験学習・ボランティアへの参加希望者が増え、生徒の福祉への関心は高まりつつある。来年度は、新型コロナウイルス感染症に対する予防を徹底し、「誰かのために働きたい」という生徒の思いを形にできるように、地域の行事にボランティアとして参加できるような機会を、地域づくり協議会と連携して増やしていきたい。また、生徒会活動の人権学習やボランティア等で学んだことや高めた意欲を、日々の活動に生かせるようにしていきたい。